

メーユ通信

豊かな海へ 科学の力で

東京大学大気海洋研究所 プロジェクトメーユ ニュースレター

Tokai Ecosystem-Associated Marine Sciences since FY2011
No. 12
10. October. 2018

特集1 座談会

「海と希望の学校in三陸」 開校!



メーユの クイズにチャレンジ!

サメなどの軟骨魚類が海の中で
生きるため、体の中にとめるものは、
次のうちどれでしょう?

1. ストレス
2. お金
3. 尿素



ページをめくって
答えを探そう!!

特集2

“赤浜の東大” 新たな出発

「海と希望の学校 in 三陸」 開校!

大槌の国際沿岸海洋研究センターを拠点に、長年海の研究に取り組んでいる大気海洋研究所。釜石で、希望と社会の関係を考へて「希望学」を提唱してきた社会科学研究所。三陸にゆかりのある東京大学のこの二つの研究所が手を組んで、今年、地域密着型のユニークなプロジェクトをスタートさせました。プロジェクトの名は「海と希望の学校 in 三陸」。三陸の海や風土、文化について調べるとともに、その成果をわかりやすく説明しながら地域に“希望”をはぐくむ人材を育成する試みです。今回は、同プロジェクトの立ち上げに関わった両研究所の関係者、そして大槌町の小中一貫校・大槌学園のお二人の先生方に、プロジェクトへの思いや今後の展開などについて語り合っていました。



文・宮腰卓也 撮影・山本祐之

復興のシンボルにもなった蓬萊島(ひょうたん島)が浮かぶ大槌湾。右手の茶色の建物が旧国際沿岸海洋研究センター。敷地内にミニ博物館「海の勉強室」を建設予定。その左手奥に見えるグレーと白の建物が、新築移転した現センター。



三陸地域の特徴

センター移転を機に地域の研究所に

河村 大気海洋研究所(以下、大海研)では、今年度から、社会科学研究所(以下、社研)の玄田先生たちと「海と希望の学校 in 三陸」というプロジェクトを始めました。赤浜の国際沿岸海洋研究センターの新築移転を機に、地域や地元の子どもたちのために何かできることはないかと模索する中で生まれた取り組みです。

津田 地域貢献に詳しい社研の先生方が隣の釜石市を中心に活動されていたのも、われわれにとっては幸運でした。ご助言を賜ろうと相談に伺ったところ、その日のうちに「一緒にやりましょうよ」「名称は「海と希望の学校 in 三陸」で決まりだね」と大沢先生と玄田先生におっしゃっていた。

玄田 大海研の研究フィールドは「海」。僕らは「希望」をキーワードに釜石で地域調査を行ってきました

Tohoku Ecosystem-Associated Marine Sciences (TEAMS) 東北マリンサイエンス拠点形成事業—海洋生態系の調査研究— について (プロジェクト)

東京大学大気海洋研究所
大槌湾・三陸沿岸域



文部科学省の支援を受けて2012年1月に開始され、東北大学、東京大学大気海洋研究所、海洋研究開発機構を代表機関・副代表機関とし、全国の研究者が連携して、地震と津波で被害を受けた東北沿岸域の科学的な調査を10年間にわたって行う事業です。調査研究を通じて漁業の復興に貢献することを目指しています。東京大学大気海洋研究所では、震災後に建造された調査船「グランメーユ」*にちなみ、TEAMS 東大グループの愛称を「プロジェクト」と名付けました。岩手県大槌町にある「国際沿岸海洋研究センター」を拠点として、調査研究を続けています。

*「グランメーユ」とは仏語で大きな木槌の意

本冊子は東北マリンサイエンス拠点形成事業における広報の一環としてプロジェクトが発行するものです。活動内容や研究成果はウェブサイトからもご覧いただけます。

東北マリンサイエンス
拠点形成事業
<http://www.i-teams.jp/>

プロジェクト
<http://teams.aori.u-tokyo.ac.jp/>

「メーユ通信」のバックナンバーは、当サイトでご覧いただけます。

プロジェクトの
広報大使・メーユが
ご案内します!



CONTENTS

特集1 座談会
「海と希望の学校
in 三陸」開校! ... 3

特集2
「赤浜の東大」新たな出発 ... 8

研究センターの
エントランスを飾る
天井画が完成 ... 9

街歩き 第12回
お客様の声に耳をすませ
ふるさとと共に
会社の発展をめざす ... 10
小野食品株式会社
小野 昭男さん

はまさんの台所 第12回
サメ団子とサメさつま ... 12
コラム: サメについて
東京大学大気海洋研究所 生理学分野
教授 兵藤 晋

メーユ通信 第12号 2018 秋
発行日/2018年10月1日
発行/東京大学大気海洋研究所
(プロジェクト事務局)
代表者: 永田 俊

○企画・編集/木暮一啓(編集長)、青山潤、佐藤 克文、永田 俊、渡部 寿賀子(編集委員)

○外部制作スタッフ/小森直也(ディレクター) 宮腰卓也(ライター) 山本祐之(カメラマン) 松田圭(デザイナー)

〒277-8564
千葉県柏市柏の葉5-1-5
東京大学大気海洋研究所
(プロジェクト事務局)
電話: 04-7136-6407
E-mail: teams@aori.u-tokyo.ac.jp
URL: <http://teams.aori.u-tokyo.ac.jp/>

topic

赤浜の東大に クジラが登場! —オープンを飾った バルーンアート—



「赤浜の東大」こと国際沿岸海洋研究センターの新棟が完成し開所式を迎えた7月20日、センターのエントランスホールギャラリーに、大きなザトウクジラが水しぶきをあげて登場しました。

手がけたのは須原三加さんらバルーンアーティストの皆さん。須原さんは、2011年に東京大学大学院修士課程を修了した卒業生でもあります。現在は国立研究開発法人中央水産研究所で研究支援職員としてマイワシの生態学的研究を続けるかわら、東京でバルーン装飾専門サービスの Loved up Balloons (ラブドアップバルーンズ) を立ち上げて代表を務めています。

センターでは翌21日に施設見学会を開催し、地域のたくさんの方にご来場いただきましたが、「風船には人を笑顔にする力があると信じている」という須原さんの言葉通り、子どもも大人も、新センターに入ったとたん歓声と笑みを浮かべていらっしゃいました。再スタートの記念日にバルーンと皆さんの笑顔が大きな花を添えて下さいました。心を新たに皆で力を合わせていこうと思います。(渡部 寿賀子)



ザトウクジラ

バルーンアーティスト
須原 三加
(すはらみか)さん

「この一歩が、大槌という小さな町から東北被災地全体に、勇気と前を進み続けるエネルギーを与える大きな力になりますように」



た。違う分野の研究者同士が協力し合うことで面白いことができるのでは、と考えました。

大沢 私は四月から地域連携担当の大学執行役・副学長に就任したので、このプロジェクトにフル参画はむずかしいですが、東大の地域連携の目玉事業ということで大いに注目しています。

河村 この海と希望の学校では、大きく二つのミッション（目指すところ）を設定しています。

一つ目のミッションは、三陸の海の研究です。リアス式の三陸沿岸には多くの湾や浜があり、それぞれ異なる特徴を持っています。例えば、大槌湾はワカメの養殖が盛んですが、山田湾ではカキが主力。海環境が違うために特産物も変わるわけです。また、大槌にも山田にもそれぞれ固有の歴史・文化、ならわしなどがあります。そうした湾・浜ごとの特徴を、自然科学と人文・社会科学の両面から明らかにしていきたいと考えています。

もう一つのミッションは、これらの研究をベースにした学びの提供です。地域の学校に向いて対話型授業などを行い、子どもたちに三陸の海の特徴や魅力などについてわかりやすく語る予定です。最終的には、郷土に対する誇りと愛情を持ち、地域に希望をもたらすことのできる人材を育てていくことが、私たちの目標です。

青山 今日は、地元の大槌学園から武田、多田両先生にもお越しいただいています。教育現場でのご経験なども踏まえて、いろいろご意見を頂戴できればと思います。

武田 大槌町の小中学校には、「ふるさと科」という独自の教科があります。地域への理解を深め、自分の生き方やふるさと創生などについて考えていく実践的な授業で、海と希望の学校と非常に近いものがある



大槌学園ふるさと科 / 現5年生の田植え作業
地元の農家の方が教えてください。(写真:大槌学園)

い体験でもいい。われわれの研究で、三陸のそれぞれの湾や浜のいいところを見つけ、それを売りにしていくことができれば、三陸全体に人が集まる。その結果、漁業だけでなく、地域のいろんな産業を活性化させていけるかもしれません。

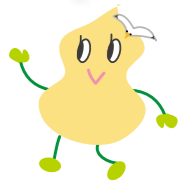
武田 内陸の子どもたちは海のことを知る機会がありませんので、彼らが体験的に学べるような場もあるといいですね。

多田 私は、海と希望の学校のリーフレットにある「ローカルアイデンティティ」という言葉にシンパシーを感じました。子どもたちには自分たちの住む地域にとっても愛着を持っていますが、アンテナを高く張って外の世界のことも知った上で、自分たちの地域に誇りを持ってほしいと願っています。

内陸出身の自分も、大人になるまで三陸沿岸は未知の世界でした。海と希望の学校がそうした受け皿になるというのは可能でしょうか。

青山 実は今、盛岡で「海と希望の学校in盛岡」をつくらうという市民の動きがあるんです。盛岡は岩手の文化の中心ですが、「でも、海に関しては大槌だ

座談会に参加された皆さんです。



河村 知彦(かわむら ともひこ)

■東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター センター長／資源再生分野 教授。「海と希望の学校 in 三陸」校長。専門は海洋生態学。著書に「アワビって巻貝!? 磯の王者を大解剖」(恒星社厚生閣) など



大沢 真理(おおさわ まり)

■東京大学 大学執行役(地域連携担当)・副学長。専門は社会政策、比較ジェンダー分析。昨年度まで社会科学研究所所長を務め、「海と希望の学校 in 三陸」に取り組むことを決定したメンバーでもある。共編著に「ガバナンスを問い直す」(東京大学出版会) など



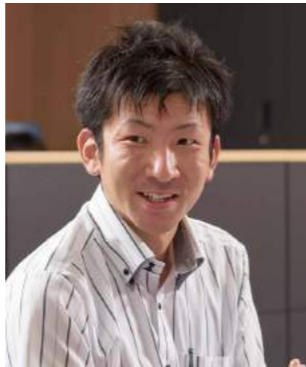
玄田 有史(げんだ ゆうじ)

■東京大学社会科学研究所 教授。専門は労働経済学。同研究所の「希望学プロジェクトチーム」の主力メンバーとして、2006年から釜石市の大規模訪問調査を行った。2016年度より危機対応学プロジェクトリーダー。共編著に「希望学」、「持ち場の希望学 釜石と震災、もう一つの記憶」(東京大学出版会) など



武田 啓佑(たけだ けいすけ)

■大槌町立大槌学園教諭。現在9学年のクラス担任。金管バンドクラブ担当。吉里吉里中学校と合同の野球部で顧問を務める。モットーは「誠実」



多田 俊輔(ただ しゅんすけ)

■大槌町立大槌学園教諭。現在6学年のクラス担任。金管バンドクラブ担当。モットーは「何事にも一生懸命(自分自身が「全力少年」であり続ける!)」 「地域のこどもは、地域の方々と共に育てる」



青山 潤(あおやま じゅん)

■東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター 沿岸保全分野 教授。2014年より岩手県遠野市在住。専門は魚類生態学。ウナギ一筋に研究を行ってきたが、近年では東北のサケやイカナゴにすっかり魅せられている。著書に「アフリカより旅」 「うなどん」(講談社) など



津田 敦(つだ あつし)

■東京大学大気海洋研究所 所長／浮遊生物分野教授。専門は生物海洋学(動物プランクトン、物質循環)。「学生の時以来、大槌湾をフィールドとして研究しています。大槌は第三の故郷です」

と思います。
多田 今日は東大の先生方から、ふるさと科の授業に活かせるようなお話も聞けるのでは、と期待しています。よろしくお願ひします。



大槌町立大槌学園
震災前までは地区ごとに分かれていた小学校がプレハブの校舎で一緒に学ぶようになり、2015年から小中一貫校としてスタートし、2016年9月に新校舎が完成した。また吉里吉里地区も、小学部と中学部併設型の「吉里吉里学園」として、小中一貫校となった。

地域の強み、郷土への愛着と誇り「ローカルアイデンティティ」を育む

河村 大槌をはじめとする三陸沿岸の地域にとって、海は産業的にも文化的にもとても重要な存在です。ただ、近年はサケやサンマ、イカなどが不漁続きで、まちも漁業者も元気がありません。海と希望の学校では、そうした課題にも積極的に取り組んでいければと思っています。

青山 温暖化がどんどん進んで、三陸で獲れる魚の種類が変わってきていますよね。三陸ブランドで売ることができる魚介類は限られていて、それ以外ほとんど売りものにならないと聞きました。

大沢 売りものにならないけどおいしい魚って、ないんですか。

河村 ありますよ、流通しないだけで。

武田 このあたりではマンボウの肝とかも食べますね。鮮度が落ちやすいせいとか、よそではあまり見かけませんが。

多田 私は内陸の花巻出身ですが、沿岸に赴任して初めてアワビの肝を食べました。こんなにおいしいものがあるのかとびっくりしました。

よね」と盛岡の子どもたちが思えるような取り組みが、いずれ実現するかもしれません。

女性が地域を盛り上げる

大沢 先日、河村先生のご講演を聞いて、三陸沿岸は奇跡の海だと強く感じました。海底の地形や湧水など、いろいろな要素がからみ合って三陸の各湾を特徴づけていること。また、湾に流れ込む河川の源流にある森林や、流域での人間活動などが、海に環境に大きく影響していることも知りました。

河村 森・里・海のつながりの話ですね。東北マリンサイエンス拠点形成事業にもご参加いただいた、京大の山下洋先生が取り組まれてきた研究テーマです。

大沢 そのお話を踏まえての提案なのですが、川や森林なども入れた湾岸マップを地元の子どもたちとつくってみてはどうでしょうか。家庭の生活排水をどう処理しているかなども調べてもらって。いい環境学習になるのではないかと思います。

津田 面白いアイデアですね。森・里・海の間がりの点も多

いのですが、深い関連性があることは間違いありません。森林の伐採や過剰な生活排水が海に環境に悪影響を及ぼしてきた例を、われわれの世代は嫌というほど見てきたわけです。



大槌学園ふるさと科 / 現3年生の山体験
長者森養蜂の藤原勝志さんを訪問。(写真:大槌学園)

河村 ただ、生活排水は海の生産力を支える栄養塩を含んでいるので、ある程度までは豊かな海を作るのに効果的ともいいますね。

大沢 使うのが合成洗剤が石けんかかなり違うようです。宮古市の重茂では、一九七〇年代から、海を汚さないために合成洗剤ではなく石けんを使おうという運動を漁協のおかみさんたちがやっています。

玄田 女性にはそうやって地域を変えていく力がありますね。海と希望の学校でも、子どもたちのお母さんを巻き込んで盛り上げていければいいと思っています。

武田 学校の行事や部活動の応援でも、お母さんたちは非常にパワフル。地域のコミュニティをしっかり支えている印象があります。

青山 数年前に家族で柏から遠野に移住しましたが、うちの妻も地域にすぐ溶け込んで、実に生き生きと活動していますよ。

大沢 男性と違って女性には肩書きやしがらみが少ないので、新しいことにチャレンジしやすいのかもしれないですね。ただ、女性は男性のいる前では口が重たくなる傾向があるので、私が地方で調査をするときには女性同士でおしゃべりできる場を作ります。すると、びっくりするくらいいろんな意見が出てきます。これは学校などでもやれるかもしれませんよ。地域のお母さんにインタビューするときは女子生徒が聞きに行くとか、議論の場を男女に分けてやってみるとか。

武田 面白いですね。ぜひ、ふるさと科の授業でも使わせていただきたいです。

挫折や失敗経験から希望へ

青山 海と希望の学校では、地域の人々や子どもた

玄田 がむしゃらに探すにしても、手に入れたヒントを活かしながら希望につなげていくことの大切さを海と希望の学校では伝えたいと思います。

自分だけの「物語」から地域愛へ

津田 ずっと聞いていてちょっと思ったのは、地域を元気にするにも、希望を見つけるにも、その根底には「地域愛」があることが大前提ではないでしょうか。三陸の誇りとか、大槌への愛といったものがどう育つのかという視点も必要かなと思います。

河村 そうですね。損得を抜きにした地元への思いは、学びや活動の大きな原動力になります。

津田 科学雑誌『ネイチャー』の東京支局長だったアラン・アンダーソンは若手をこよなく愛した方でした。理由は、岩手の風土が故郷のウェールズに似ているから。そんな郷土愛もあります。

多田 私の生まれ故郷の花巻は、いろいろマイナス面もありますけど、やっぱり大好きですね。自分にとっての原風景というか、人との出会いや思い出が詰まった「物語」のある場所です。



釜石高校調査報告会 2018.2.19
「釜石高校・東大社研学校生活向上プロジェクト」として、高校1、2年生を対象にアンケート調査を行った報告会。学力や高校生活満足度を向上させるため、自分自身の性格を知ることが大切、という話に、生徒たちは真剣に耳を傾けてくれました。
(写真:社会科学研究所 危機対応学HPより)



第23回NIE全国大会・特別分科会の様子
全国大会が7月に盛岡で開催され、大槌学園は特別分科会の会場に。6学年「『大槌希望新聞』を作ろう～復興に向けて歩む人々の願いに触れて～』と9学年「私たちはどう生きるか～自分ごととして未来を語る『ふるさと科』の実践～』の公開授業を行いました。(写真:大槌学園)

ちに希望を育んでもらうことを目的の一つに掲げていますが、希望とは何なのかとあらためて問われると、答えに困りますね。

玄田 希望学では、Hope (希望) with A Wish for Something to Come True by Action「つまり「何かを行動によって実現しようとする気持ち」としてあります。これまで何度か中学校や高校に行って希望の話をしたのですが、特に希望などなかったという生徒から「自分は気持ちが足りない」「行動してない」といった言葉が出てきたりして、自分で自分の希望を考えるきっかけにもなるようです。

河村 海と希望の学校で、自分で考え、自分の言葉を発する経験を重ねていけば、子どもたちにも何かが見えてくるかもしれない。それが希望なのかな、という気もしますね。

玄田 僕らは二〇〇六年から釜石で希望の研究をしています。ですが、ごん底から必死に会社を立て直してきた経営者から言われた言葉があります。「希望に、棚からぼた餅」はない。希望は誰かに与えられるものではなく、自分で動いて、もがいて、つかみ取るものだ」と。非常に重みのある言葉でした。

玄田 物語というのは大事ですね。自分の人生を地域とからめて物語として語れるようになれば、郷土愛が一層深まると思います。

河村 そうした物語を、子どもたち自身の言葉で語らせるのはどうでしょう。大きな物語じゃなく、むしろ、小さくて楽しい物語がたくさんつながっていったほうがいい。

大沢 大きい物語はつながらないし、いかがわしい感じがしますね。

青山 さて、そろそろ時間も残り少なくなりましたが、最後に、武田、多田両先生から海と希望の学校へのご要望はございますか。

武田 大槌学園では職場体験などのキャリア教育を高学年で行っていますが、先生方のような海洋研究の仕事について知るチャンスはなかなかありません。

多田 ゲストスピーカーとして来ていただいて、子どもたちに研究の仕事の話をさせていただくことはできますか。

青山 ええ、ぜひやらせて下さい。釜石の高校のキャリア教育授業でお話したことがあります。ただ、研究対象のウナギやサケの話するのは得意なのですが、自分自身について語るのは難しいものだと思います。河村さんはいかがですか。

河村 例えば、僕がどんな幼少期や中学・高校時代を送って、それが今の研究の仕事にどうつながっているかといった話ならできますよ。

多田 ぜひお願いします。

武田 あと、放課後に子どもたちが気軽に立ち寄って、海について学んだり体験したりできるような環境もつくっていただけたらいいのですが。

青山 まもなく旧センターの敷地内に「海の勉強室」というミニ博物館ができる予定です。海を学べる「こ

大沢 玄田さんたちの調査結果を見ると、挫折経験のある人のほうが、希望を持ってその実現に向けて動いていますよ。

武田 学校の現場では、むしろ子どもたちを挫折させないように、カリキュラムに沿って育てているところがありません。実社会のリアルな面もきちんと教えていくべきかもしれません。

青山 なるほど。それなら、われわれが出前授業の中で、研究での失敗体験やそのプロセスを子どもたちに見せる機会をつくりましょう。

河村 失敗例なら数えきれないほどあります。(笑)

武田 東大の先生というのは失敗体験などない方ばかりだと思っていました。

青山 いえいえ、研究の九割は失敗ですから。(笑)

多田 研究で分かった結果だけを教科書で学ぶ座学よりも、失敗やプロセスの話のほうが子どもたちは絶対食いつくはず。うまくいかなかった研究にも研究者の熱や思いが込められていることを、多少でも感じ取ってもらえたらいいと思います。

玄田 先ほど、釜石の経営者の話をしましたが、もう一人、小野食品社長の小野昭男さんについてご紹介させてください(P10-11参照)。震災で大変な被害を受けながら通販などで会社を再建し、大活躍されている方です。社会学で「ウィーク・タイズ(弱い絆)」という言葉があります。住む地域などが違っても顔顔を合わせる機会はないけれど、たまに会うとフランクに話せるゆるやかな人間関係のことで、小野さんは会社再建の際、そうしたゆるい結びつきの知人たちからももらったさまざまなビジネスのヒントや提案が、希望につながったとおっしゃっていました。

河村 自分でもがいて希望をつかむという、先ほどの話とは違うケースですね。

ナーなどもあって、いつでも無料で入れますから大いに利用してください。

河村 大槌の子どもたちがここに気軽に遊びに来てくれて、それこそ研究者も含めて海に関わる仕事を志してくれたら本当にうれしいですよ。

津田 学生に海の話をする時、森林や地球など興味がどんどん広がっていくので、もしかしたら『海』は入り口でよいのかもしれないよ。

河村 皆さんのご意見を踏まえ、今後、地域の皆さんと共に希望を育む活動を盛り上げていければと思います。本日はありがとうございました。



国際沿岸海洋研究センターの3階バルコニーにて

“赤浜の東大”新たな出発

東北マリンサイエンス拠点形成事業では、これまで、被災した国際沿岸海洋研究センター旧研究棟の3階部分を復旧して研究の足場としてきましたが、この度、多くの皆様のご支援・ご協力のもと、新研究棟が完成し、運用開始の運びとなりました。

これからは新研究棟を活用して、国際水準の研究を推進するとともに、地域の皆様との連携をなお一層強化するための活動を進めていきます。

今後とも、本事業についてのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



文・永田 俊 (P8) / 宮腰卓也 (P9) 撮影・山本祐之 / 大気海洋研究所 (P8-9)



新たに設置された国際沿岸海洋研究センターのロゴ

7月20日に三陸花ホテルはまぎくで開催された新棟完成記念祝賀会と、翌日の新棟・宿泊棟見学会の様子をご紹介します

①新棟完成記念祝賀会では、大槌町郷土芸能保存団体連合会の皆さんが陸中弁天虎舞を披露して下さいました ②見学会の催しで、リクエストに応じて目の前でバルーンを作り、プレゼントする須原三加さん。新研究棟は廊下も広々としています ③玄関でお出迎えていたアイヌメ。こちらも須原さんらによる作品 ④最新の設備や機器を整備した実験室 ⑤沿岸センター外観。3階建て構造ですが、2階山側に正面玄関があります。海側の窓からは蓬莱島（ひょうたん島）を一望できます ⑥宿泊棟の食堂で開催された講演会。研究実験棟の講義室の他、宿泊棟の食堂スペースでも小規模なセミナーなどが開催できます

研究センターの

エントランスを飾る天井画が完成



生命の多様性をテーマに現代アートの気鋭・大小島真木さんが制作

国際沿岸海洋研究センターの新研究棟には、エントランスホールやギャラリーなど、地域の皆さんが自由に入力できるスペースが設けられています。玄関からエントランスホールに入っすぐ目に飛び込んでくるのが、サケやウミガメ、プランクトンなど、大槌のさまざまな海の生きものたちが描かれた天井画。東京都東久留米市在住の現代アーティスト、大小島真木さんの作品です。大槌町の復興を支援するグループが、新センターに大小島さんの作品を飾ることをセンター関係者に提案し、制作が実現しました。

天井画のタイトルは「Archipelago of Life 生命のアーキペラゴ」とは多数の島からなる海域、群島という意味です。「生命が海から生まれ、広がり、群島のように種を形成していくイメージを作品にしました。私たち人間もそうした生命の多様性の一部なんだ、という思いも込めました」と作者の大小島さん。制作にあたっては、センターの研究者の助言や図鑑類などを参考に、海の生きものたちのそれぞれの特徴をできるだけ忠実に描写するよう心掛けたそうです。

さて、皆さんは、天井画に描かれた大槌の海の生きものを、いくつ見つけられますか？



① エントランスホール天井画「Archipelago of Life 生命のアーキペラゴ」大小島 真木 作
② 4月22日、天井画の完成に先立ち、大小島さんの制作の様子が近隣の方々に公開されました。作業用の足場に招き入れられた子どもたちは、アーティストの仕事と道具に興味津々。上を向いて手を伸ばしての作業が続きました
③ 7月20日、大槌学園4年生のふるさと科の授業。床に寝転んで、天井画を眺めます。子どもたちの質問に研究者が回答・解説しました



大小島 真木(おおこじま・まき)
■現代アーティスト 女子美術大学講師
東京生まれ。2011年女子美術大学大学院美術専攻 修士課程修了。動植物や森、菌などをモチーフにした独特の世界観を持つ作品(ペインティング、壁画、映像)を数多く制作。トーキョーワンダーウォール賞(2009)、VOCA奨励賞(2014) など受賞。2017年アニエス・ペー主催の海洋調査船タラ号太平洋プロジェクトに参加。南沢水川神社の天井画奉納、多摩六都科学館のプラネタリウム全天88星座の原画制作など、多方面で活躍中



大槌工場の前に立つ小野昭男さん。
震災後に再建された事業所もフル稼働している

お客様の声に耳をすませ ふるさとと共に会社の発展をめざす

小野食品株式会社 代表取締役 小野 昭男さん

三陸などでとれた旬の海の幸を、ていねいに調理し、「食わずつぱくした魚料理を、いつでも手軽においしく食べられる——。そんな通販セットが人気を呼び、業績を伸ばしているのが、釜石市の水産加工会社・小野食品です。しかし、その道のりはひと筋縄ではありませんでした。「地域全体が良くなること」を目標に掲げる社長の小野昭男さんに、お話を伺いました。

父親の個人商店を継ぎ 水産加工会社を設立

甲子川に架かる大渡橋の上には、かつて橋上市場という、地元の買い物客でにぎわうマーケットがありました。その一角で、自家製の干物や塩辛などの水産加工品を販売していたのが、小野さんの父親のお店。現在の小野食品の前身です。小野さんは、小さいころから両親が二人で店を切り盛りする姿を見て育ち、鹿児島大の水産学部に進学しましたが、家を継ぐつもりはまったくなかったといいます。

「食や魚には関心がありましたが、個人商店で商いをするよりも、海外で原料を調達・加工して日本へ輸出するようなグローバルな事業に携わりたいと考え、大手スーパーに就職しました」

しかし、入社三年目に父親が急逝したことで、小野さんは、あとに残された母親や当時高校生だった弟たちの面倒を見るため、父親の店を継ぐことを決

んでいられるお客様を見て、やはり自分の考えは間違っていないかと確信しました」

二〇〇九年、満を持して自社ブランドの通信販売をスタート。一年後には加工から発送までを行える新工場を隣町の大槌町に建設するまでになりました。

自社の経営とふるさと再生は「クルマの両輪」

しかし、開所のわずか二週間後、東北地方を地震と津波が襲います。大槌の新工場は津波に呑まれ、釜石の二つの本社工場も全半壊して操業不能に。後に残ったのは、がれきの山と数億円の借金でした。

「絶望的な気持ちになりましたが、工場再建に向けて動き出すと従業員も来てくれて、がれきの片付けに加わってくれました。給料も出ない状況の中で共に頑張ってくれる仲間を見て奮起しました。通販のお客様からは次々と激励のお手紙をいただき、一日も早くお客様に商品をお届けしたいと、再建をめざして頑張ることができました」

そして震災から三カ月後、釜石の本社工場の一つが操業再開。業務用ルートも多くは同業他社が入り込み、取引再開が難しい状況でしたが、震災前にスタートしたばかりの通販事業が会社を倒産の危機から救いました。通販の会員は小野さんの予想をはるかに上回るペースで増え続け、二年後には震災前の売上額を超えてその後も成長し続けています。

「今後とも販路を拡大していく計画ですが、私たちが良くなっていく意味がないんです。ビジネスをさらに広げること、わが社だけでなく、魚をとる漁師さんや一次加工業者、運送会社など、地域全体が元気になれる。地域とともに会社を発展させていくことが私の目標です」

意。鹿児島出身の奥さんとともに、釜石に戻ってからは、精力的に売り込みを行いました。「築地の卸問屋にも足を運びましたが、新参者が入り込むには何年もかかるかわかり、県内の販売拡大から取り組むことにしました。最初の頃はなかなか結果が出ませんでした。スーパを回るなどして四年目を過ぎた頃から、同業者などを介して学校給食やチェーン店向けに冷凍焼き魚を納入する仕事が無くなり、あっという間に忙しくなりました」

味と質にこだわりの、消費者向けの 商品開発に活路を見いだす

ホテルや学校、病院、外食産業などを得意先としてきましたが、二〇〇〇年前後から海外企業が市場に参入するようになり、価格競争も厳しさを増して行く中で、小野さんは、もっと味を大切にしたい思いから新しい販路の開拓を模索し始めました。「多少値が張っても良質でおいしい魚料理を食べたいという消費者も多いはず。そうした層にダイレクトにアピールできる商品を開発して、お客様一人ひとりの声を直接聞きたい、と考えるようになりまし

た。小野さんは、熟練の板前さんに指導を仰ぎ、魚本来の旨味を引き出す数種類のレシピを数年がかりで完成。生協の共同購入向けに納入したところ、たちまち人気商品になり、さらに地元・釜石で試験的に始めた直売会でも大好評を博しました。



2011年3月25日 釜石工場前
工場再稼働を6月14日と定めスタートした頃



現在の釜石本社と工場



社員の皆さん
仕入れ、営業、製造、直販、商品開発、管理栄養、経理……
一人ひとりが会社の屋台骨を支えています



中骨まで
食べられて
とっても
おいしいの

小野さん自身の1ヶ月半に及ぶ入院体験から考案されたやわらか煮魚のシリーズ。「高齢者や心身の弱っている人にこそ、おいしいものを食べさせて、元気づけたい！」



新大槌工場の加工場

スタッフの
手さばきが
あざやか!



大槌湾、三陸沿岸域の食材を使った料理を提案していきます。

サメ団子とサメさつま

～淡泊でヘルシーなサメのアレンジ～



「はまさん」こと 濱 弘泰 さん

千葉県柏市にある大気海洋研究所の1階に店を構える「お魚倶楽部はま」の店主。店名は「さまざまな魚が宝石のように詰まった玉手箱を、お客さんとともに開けて楽しむ」というイメージに由来。

「魚への探求心から、“一般的ではない食材、一般的ではない食べ方”を常に工夫しています」というはまさんは、全国の漁港に自分で足を運び、通常のルートでは手に入らない優れた食材を探求しているお寿司屋さんです。



サメについて

東京大学大気海洋研究所
生理学分野 教授 兵藤 晋

サメ類は、エイ類やギンザメ類とともに「軟骨魚類」とよばれるグループに属します。サメ類は海洋生態系の高次捕食者としての重要性に加え、水産資源としても重要です。蒲鉾などの練り製品にされたり、フカヒレは高級食材として珍重されています。オーストラリアでは、フィッシュアンドチップスの店で Flake と注文すると、サメ肉のフライが出てきます。

軟骨魚類の特徴をひとつあげなさいと言われたら、「体の中に尿素をためる」ことでしょう。これは、海という高い塩分（浸透圧）環境に適応するための戦略です。捕獲されて鮮度が落ちると、尿素の分解産物であるアンモニアやメチルアミン類により強烈な臭いが発生するので、「サメは臭い」と思われていますが、彼らの名誉のためにあえて言うと、生きているサメは臭くはありません。

近年、絶滅が危惧される種がサメ類の中で増えています。その原因のひとつには、彼らの繁殖に関する特徴が関係しています。水族館でよく展示されているトラザメのような卵を産むものだけでなく、胎生のサメも数多くいます。なかには、シュモクザメのように、胎盤で子ザメが母体とつながるものもあります。卵生・胎生ともに孵化や出産までには半年以上という長い時間がかかり、一度に生まれる子ザメの数も限られているため、適切に管理・保護することが大事なのです。



材料 (3~4人分)

- サメの切り身 500g
 - 大葉 5枚
 - 山芋 40g (すりおろす)
- 【調味料】
- 塩 小さじ 2/3
 - 砂糖 大さじ 1と1/2
 - 片栗粉 小さじ 2 (同量の水で溶く)
 - 卵白 1個分

作り方

① サメを細かく切る。



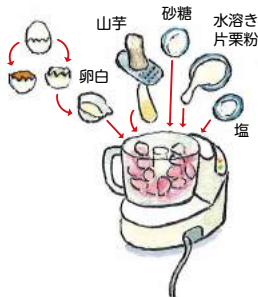
② 切ったサメを氷水でもんで、5分浸けておく。氷水をとりかえてさらに5分おく。



③ 水を切って、キッチンペーパーで水分をよくふきとる。



④ フードプロセッサーに、サメとすりおろした山芋と調味料を入れてよくまぜる。



フードプロセッサーがなかったら、すり鉢ですり潰す

⑤ ボールにあげてよく練る。サメ団子の具には、刻んだ大葉をまぜるとおいしい。



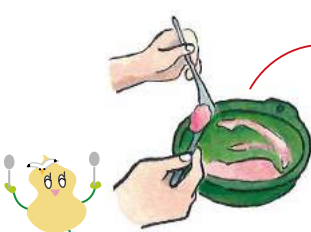
POINT!

粘りが出るくらいにトロトロにしてね。



さつま揚げには玉ねぎや桜エビなど、お好みの具をまぜても good!

⑥ 湯を沸かし、団子用の具は丸めながら湯に落とす。浮いてきたら5分ほど茹でてすくいあげる。さつま揚げも、丸めながら160°の油に落として、きつね色になるまで揚げる。



POINT!

形はボール状でも小判型でもOK。スプーンを使うと成形しやすいよ。



【サメ団子】



【サメさつま】



POINT!

お湯からすくいあげた団子は、氷水に入れると崩れにくいよ。

⑦ できあがり! しょうが醤油でめしあがれ。



メニューのクイズにチャレンジ (表紙参照) の答え

3. 尿素

ひよんなことからいろいろなサメと出会ってサメ仲間ができた。ひよんなことからサメ料理を作ることになった。今まで食べた中では、ギンザメの煮付けが最高だったな。サメ肌って言うけど、ギンザメに限っては、皮ごと食べる。

今日、団子とさつま揚げに使ったのはモウカザメ。気仙沼が有名だけど、スーパーでも手に入るよ。おいが少なし、淡泊な味はどんな料理にも合う。切り身をスライスして、ニンニクを漬けたしようにゆでソテーしたり、カレーに入れてもいいよ。

はまさんのつぶやき

